

1 単元の目標

- (1)ベースボール5の行い方を理解するとともに、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをすることができるようにする
- (2)ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
- (3)運動に積極的に取り組み、ルールを守り、助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①	①	①
②	②	②
③	③	③

3 単元指導計画

	学習内容	ねらい
第1時	オリエンテーション	学習の見通しをもつ
第2時	キャッチボールをしよう	ボールに慣れ、狙ったところに投げる
第3時	バッティングをしよう	狙ったところに打って、チームで守備練習をする
第4時		
第5時		
第6時	攻め方を工夫しよう	ランナーがいるときに狙う場所を工夫する
第7時	守り方を工夫しよう	守り方の隊形を工夫する
第8時	リーグ戦を楽しむ	学習の成果を発揮してゲームを楽しむ

4 準備運動(ボール慣れの運動)

- ボールキャッチ(バウンド、ノーバウンド)
- 的あて

- バッティング練習
-

5 基礎感覚作り(メインゲームを楽しむための動きの習得)

- ペアでボールキャッチ(バウンド、ノーバウンド)
- ボール投げ(ジャベリック)
- ベースランニング
- ランニングゲーム(走った距離でポイント)
- グループでキャッチボール(フライ、転がすなど)
- バッティング練習(狙い打ち)→的あてなど

6 ルール

- ・ルールが複雑なため、簡易化するためにランナーを残さない。(1ベース一点)
- ・場合によっては、捕球後各ベースに投げるのではなく、アウトゾーンを作り必ずそこに投げさせる。
- ・アウトが取れない場合があるので、打者が一巡したら攻守交代
- ・
- ・ポイントやラインを設け、抜けたボールはテイク1ベース、直接入ったらホームランにして打てる児童へも有利になるようにする。
- ・ファールなどのバッティングのミスなどは2回までOKにする
- ・学級やチームの実態に応じてアウトの数を調整する。
- ・一回で取れる点数の上限を定める。

7 配慮が必要とされる児童の姿、場面、困り感

- ・ボールを捕る、打つのが苦手
- ・ボールに当たるのが怖くて嫌がる児童がいる可能性がある
- ・体育館では2コート作るのが難しいため、人数などを工夫する必要がある。

- ・運動場でやるときに適切なフェンスがない
- ・ボールを投げる場所を瞬時に判断することが難しい
- ・素手で取れない児童への手立て(グローブ使用)
- ・投げるのが苦手な児童へアウトゾーンを増やしてアウトを取りやすくする。

8 運動が苦手な児童への配慮

- ・ボールの種類を選ばせる
- ・ボールを打つ時、手が痛くなると言って思い切り打てない子には、ダンボールを手に巻いて打ってもらう。
- ・送球場所の判断に困る児童の後ろに、ボールを投げる場所をガイドする人をつける
- ・ボールを捕球した場所に整列するルールを加える。
- ・各ベースの守備を固定して、「○○に！」という声掛けを行う。